野田小学校　校長室だより
ふじだな

No.25
令和７年１０月１５日
大阪市立野田小学校
校長　川辺　智久

「いのち・いじめについて考える週間」の取組み ②

「校長室だより」７号でお伝えしました通り、本校では、**「いのち・いじめについて考える週間」**を学期に１度設定し、全校朝会での校長講話や各学級での指導を通して、子どもたちや教職員の「いじめ防止」の意識を高め、「いじめは絶対に許されない行為であること」を学校全体で再認識する機会としています。また、「いじめ防止基本方針」のもと、定期的に学校生活アンケートを実施し、いじめの早期発見や実態把握に努めています。

今年度２回目の「いじめについて考える週間」の初日、１０月６日の全校朝会の校長講話では、子どもたちが、いじめにつながる身のまわりの変化について気付き、いじめの未然防止や解消に向けて主体的に取り組もうとする態度を育てたいと考え、話をしました。

いじめにつながることには、自分が気付いていないこともあります。自分たちが遊びのつもりでやっていることが、相手の心や体を傷つけることもあります。

では、一度、みんなのクラスの中に、こんなことがないかどうか、心の中で振り返ってみてください。

①人の悪口やあだ名を言ってばかにする。
②かげ口をいったり、こそこそ話をしたりする。
③いつも一人ぼっちになっている人がいる。仲間外れになっている人がいる。
④ボール遊びをしているとき、いつもねらわれてあてられたり、鬼ごっこで、いつも鬼ばかりをさせられたりする人がいる。
⑤人の持ち物や靴、服などをかくす。
⑥だれかを無視する。口をきかない。机をわざとはなす。くっつけないようにする。
⑦人の持ち物を、勝手に使ったり、いたずらしたりする。
⑧「じょうだん」と言いながら、たたいたり、けったり、足をかけたりしている。
⑨人がいやがることを紙に書いて、こっそり机の中やロッカーの中に入れる。
⑩いやなことをされたり、言われたりしている人がいるが、自分には関係ないので、注意しない。

これらのことは、とっても心が悲しく、つらい気持ちになりますね。こんなことがくり返されると、「いじめ」につながります。まず、一人一人が いつも相手の気持ちを考えられる人になりましょう。そして、まずクラスの中で「これは、いじめにつながるかも知れない」ということに気付くことができる人になってほしいと思います・・・。

道徳や学級活動などの時間にも、各学級で「いじめ」や「友達関係」についてクラス全員で考えました。

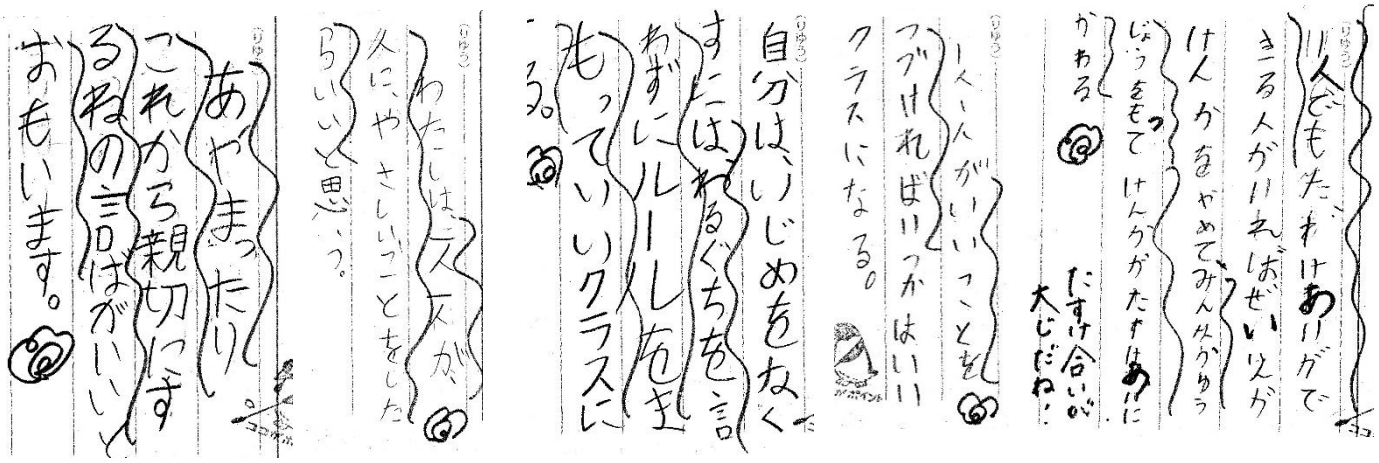
２年生の学級では、いじめのないクラスにするにはどうすればよいか一人一人が考えたことを道徳のノートに書きました。

- いじめをへらすには、いやなことをしたり、言ったりしているところを見たらとめる。
- いじめをしたら、いじめがかえってくるから、わたしは友だちにいじめをしない。
- いじめをなくすには親切にして、いやなことを言わない方がいいと思う。
- わるロを言われても、わるロを言った人に３ついいことを言いつづけたらいいと思った。

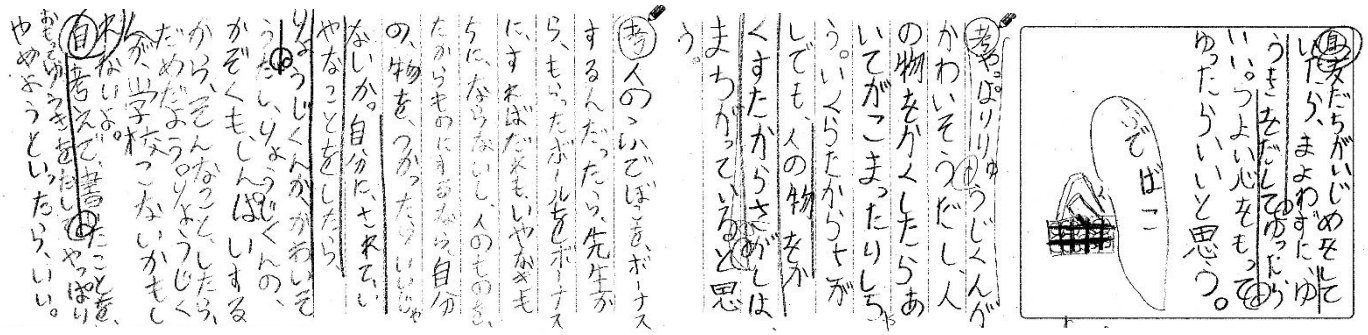
（※裏面に続く）

※「校長室だより」カラー版は、本校ホームページ「配布文書」にアップしています。

（※表面より）



また、３年生の学級では、道徳の教科書の「たからさがし」の教材を通して、「正しいと判断したことを、自信をもって行おうとする」態度について考えました。この教材の場面は、クラスで「たからさがし」をすることになり、友達の筆箱を砂場にかくしてびっくりさせようと言う提案が出た場面で、「やめたほうがいいんじゃないか。」という思いをどう伝えたらいいのか、どうしたらやめられるのかを考えていきました。



人はしてはいけないと思いつつも、してしまったり黙ってしまったりと、周囲に流されてしまうことがあります。より良い生活を送っていくためには、よく考えて行動することが大切であり、他者がどのようにしようとしても、自分でしっかりと考え行動しようとする態度を養うことが大切です。

子どもは正義がどんなものであり、大切なことも理解していますが、行動に移すとなると難しいことが多々あります。「いじめ」も同じです。「いじめ」はいけないことだと頭ではわかっていても、いざ自分の身の周りで「いじめ」が起こった時に自分にはどんなことができるのか・・・。「いじめ」を抑止するためには、「いじめている子」「いじめられている子」以外の第 3 者の言動が大きく影響します。「いじめ」や「いじめにつながるような言動」を客観的に見ている子どもたちが**「いじめ」を批判的に捉え、「いじめは絶対に許されない」と発信する、「いじめられている子」に寄り添う、信頼できる大人に相談する等、自分にできることを行う**ことが、「いじめ」の大きな抑制力となります。

本校では、**いじめは「いつでも、どの子どもにも、どの学校においても起こりうる」**という認識のもと、いじめの未然防止に力を入れて取組んでいきます。そして、**他人の心の痛みが分かる子どもを育て、思いやりあふれる学校づくりを進めたい**と考えています。しかしながら、いじめの実態は学校だけでは十分に把握しきれない場合もあり、ご家庭でのご協力が必要です。お子さまの様子で気になることやご心配なことがありましたら、いつでも学校にお知らせください。

※「校長室だより」カラー版は、本校ホームページ「配布文書」にアップしています。